



地方独立行政法人 OMUTA CITY HOSPITAL

大牟田市立病院 外科だより

特集

肥満症に対する外科治療

「腹腔鏡下胃縮小術(スリープ状胃切除)」



当院の外科について

外科では食道から直腸・肛門までの消化管全体と肝胆膵領域の疾患を中心に診療にあたっています。すべての患者さんに最良の治療を届けるのはもちろんのこと、より患者さんに優しい治療を提供できるよう積極的に低侵襲な治療法を選択しています。手術においては腹腔鏡や胸腔鏡による鏡視下手術を広く導入しています。

また、「腹腔鏡下胃縮小術(スリープ状胃切除)」を2022年6月から開始しました。今後も良質で高度な医療を提供し、住民に愛される病院をめざしていきます。

主な対応疾患

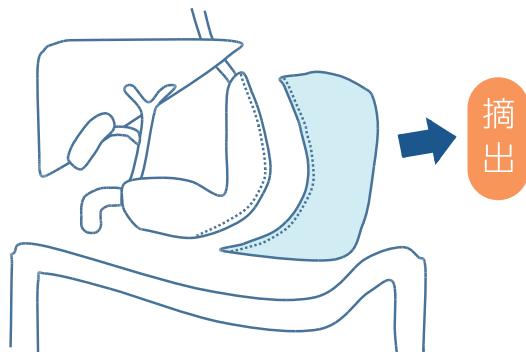
- 悪性腫瘍(主に消化管、肝胆膵)
- 食道裂孔ヘルニア
- 胃・十二指腸潰瘍穿孔
- 総胆管結石
- 鼠径ヘルニア
- 胆石症
- 腸閉塞
- 腹膜炎
- 血管
- 乳腺
- 胆囊炎
- 虫垂炎
- など

TOPICS

肥満症に対する外科治療

「腹腔鏡下胃縮小術（スリープ状胃切除）」

肥満は糖尿病や脂質異常症・高血圧症・心血管疾患などの生活習慣病をはじめとして数多くの疾患を引き起こすことは広く知られています。肥満の程度は、BMI(Body Mass Index=[体重(Kg)] ÷ [身長(m²)])を用いて区分され、わが国ではBMI:25以上が肥満、35以上が高度肥満と定義されています。また、肥満に加えて関連する健康障害を併せ持つ場合などには肥満症／高度肥満症と診断されます。肥満症ではBMIが5増加するごとに、心血管系疾患の死亡リスクは49%、呼吸器疾患の死亡リスクは38%上昇し、生活の質を損ねます。高度肥満症に対する治療は全世界的に外科治療が主体です。内科的治療の効果は軽微で一時的であるのに対し、外科治療は体重を20%～32%減少させ、その効果は10年後でも持続されます。肥満外科治療は体重を減少させるだけでなく代謝改善効果も認められるため、近年では減量・代謝改善手術と呼ばれます。肥満と同時に



福岡県南で唯一の実施医療機関



大牟田市立病院 外科部長 村上 直孝
Naotaka murakami

糖尿病、高血圧、脂質異常症の80%以上が改善することが報告されています。

保険適用となっている肥満外科治療は腹腔鏡下スリープ状胃切除術のみです。この手術は腹腔鏡下にて行われ、胃の胃底部から前庭部までの大弯側を切除してバナナ1本程度の細長い胃を作り、胃容積を減少させる術式です。美容のための手術ではなく、健康を取り戻すための手術です。私は、2020年1月からこの手術を開始して、順調に症例を重ねました。2022年4月に大牟田市立病院へ赴任し、大牟田でもこの手術を開始しました。適応と思われる患者さんがおられましたらご紹介頂ければ幸いです。

腹腔鏡下スリープ状胃切除術の適応（年齢：18才～65才）

6ヶ月以上の内科的治療によって十分な効果が得られない原発性肥満症例で、

1 \ BMIが35以上の場合

- 糖尿病 ● 高血圧症 ● 脂質異常症 ● 閉塞性睡眠時無呼吸症候群 のうち1つ以上を合併している

2 \ BMIが32.5～34.9かつ、糖尿病(HbA1c≥8.4%)を合併する場合

- 高血圧症 ● 脂質異常症 ● 閉塞性睡眠時無呼吸症候群 のうち1つ以上を合併している